

## 市民福祉部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民福祉部長 篠原 久子

〔リープロの名称〕 みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト

〔目標値〕 ①とす市民活動センター利用者数 15,000 人、②市民活動ハンドブック登録団体数 100 団体、  
③道路里親制度参加団体数 17 団体

(概要) 市民、市民活動団体、企業、行政が協働して、地域の課題に取り組み、地域力の高い、個性と魅力あるまちづくりを進めていく事業です。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	とす市民活動センターの利用者数は、8月までで5,814人だった。市民活動ハンドブックの登録団体は97団体で昨年より15団体増加した。まちづくり推進センター分館の入浴施設跡をフローリングに改修し、地域住民がより利用しやすい施設とするための工事に着手した。
	自己評価	とす市民活動センターは、中心市街地の大型商業施設内にある利点を生かし、利用者が増加している。市民活動ハンドブックの登録団体は、年々増加している。
	下半期への対応	市民活動センターの活動内容の広報に努め、さらに利用者を増やす工夫が必要である。
下半期	取組実績	とす市民活動センター利用者は12月までに10,688人となった。各地区の文化祭がまちづくり推進協議会の主催事業として開催された。まちづくり推進センター(分館)の入浴施設跡の改修を終え、諸室として利用を開始した。
	自己評価	とす市民活動センター利用者は、徐々に増加している。各地区のまちづくり推進協議会は、「まちづくり推進計画」に基づき、複数の団体の連携による取り組みが行われるようになってきており、地域の連携が徐々に深まりつつある。
	目標値の達成状況	とす市民活動センター利用者数は、目標には届かないが増加傾向にある。
	次年度への対応	とす市民活動センター利用者数は目標の15,000人を達成できるよう、センターの活動の周知など広報に努める。まちづくり推進協議会の活動が活性化するように、継続して支援していく。

### 自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
3	3	3	9

\* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

### 副市長の指示

上半期

市民活動センターの利用拡大のために、センターの役割、活用状況について周知を図ること。

下半期

市民活動センターの利用拡大のための新たな方策等を検討すること。

リープロごとに1枚

## 市民福祉部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民福祉部長 篠原 久子

〔リープロの名称〕 未来を創る人を育てるプロジェクト

〔目標値〕 ①鳥栖市地域子育て支援センター利用者数 15,000 人、 ②保育所待機児童数 0 人、

③休日や夜間に受診できる医療機関を知っている親の割合[1歳6か月健診時]100%

(概要) 子育てについて、大きな不安や負担を感じることなく、安心して産み、楽しく学校に通い、意欲的に学ぶ取組を進めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	子育て支援センターで未就園児と保護者の交流の場の提供及び育児相談、育児講座を実施した。まちづくり推進センターで、就学前の乳幼児と保護者の交流の場「ママ・コミュ広場」を開催した。 鳥栖市休日救急医療センターは、7月から月に2回の小児科専門医の診察日を設け、診療時間を9時～19時とした。夜間に久留米広域小児救急医療センターで受診できる体制を確保した。
	自己評価	子育て支援センター事業の改善やママ・コミュ広場での交流は、保護者の子育てに関する不安解消につながった。 鳥栖市休日救急医療センターは小児科受診が多く、専門医の診察日を充実させることで保護者の安心につながった。
	下半期への対応	「鳥栖市子ども・子育て支援事業計画」を策定する。
下半期	取組実績	子育て支援センター利用者数は15,030人（平成27年1月末現在）である。今年度はセンターの事業（講座・交流）をベストアメニティスタジアムでも実施した。 「鳥栖市子ども・子育て支援事業計画」を策定した。 鳥栖市休日救急医療センターの受診者は1827人（4～12月）であり、過半数を小児科が占める。
	自己評価	子育て支援センターの講座の中での質疑応答や交流が、子育て世代の育児中の孤独や悩みの軽減につながった。鳥栖市休日救急医療センターは月に2回の小児専門医の配置により、小児科の受診割合が伸びており、保護者の安心につながっている。
	目標値の達成状況	子育て支援センターの利用者数は、15,000人の目標値を達成できた。
	次年度への対応	子育て支援センターのさらなる事業展開を図る。鳥栖市子ども・子育て支援事業計画の着実な実施に努める。鳥栖市休日救急医療センター及び夜間の久留米広域小児救急医療センターでの受診体制を継続する。

### 自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
4	3	4	11

\* 5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

### 副市長の指示

#### 上半期

「鳥栖市子ども・子育て支援事業計画」の策定を、着実に進めること。

#### 下半期

次年度からは、「鳥栖市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、待機児童対策等、着実に推進すること。

市民福祉部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民福祉部長 篠原 久子

[リープロの名称] 市民の健康な暮らしを支えるプロジェクト

[目標値] ①健康マイレージの参加者 7,000 人、②健康診査の結果がハイリスクの方への保健指導実施率 80.0%

(概要) 市民が、自分の健康を自分で管理できるようにし、健康づくりへの意識を高め、主体的に健康づくりに取り組めるよう推進する。また、高齢者や障害のある人が住み慣れた地域で社会参加しながら、自立した生活を送れるような取組を図ります。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	<p>自らの健康は自ら管理していくという意識を高めることを目的とした「うらら健康マイレージクラブ制度」を参加しやすい内容に変更した。健康診査や健康教室の開催、また介護予防教室などを行った。</p> <p>特定健診の広報に努め、受診率向上を図った。特定健診の結果、高血圧、高血糖などのハイリスクの方へ家庭訪問による保健指導を行い、重症化予防に努めた。</p> <p>肝炎ウイルス検診は40～70歳までの5歳ごとの年齢の方への個人通知を実施し、肝炎検査の周知に努めた。</p> <p>障害者・高齢者への支援や市民を対象とする障害者理解促進事業の準備を行った。</p>
	自己評価	うらら健康マイレージクラブの参加者が増加した。健康に関する各種事業を行い、生活習慣病や介護の予防に繋がった。
	下半期への対応	小学生全員を対象に子ども版健康うららマイレージクラブに取り組む。障害者・高齢者への支援を継続する。市民を対象とする障害者理解促進事業を行う。
下半期	取組実績	「うらら健康マイレージクラブ制度」は内容変更により、1700人の参加があった。また「うらら健康マイレージクラブ(子ども版)」を小学生全員(4,933人)を対象に実施した。特定健診の結果判明した高血圧、高血糖などのハイリスク者に対し、保健師が家庭訪問による保健指導を行った。
	自己評価	「うらら健康マイレージクラブ(子ども版)」は学校現場と連携して実施できた。ハイリスク者への保健指導は、生活習慣病等の予防体制づくりにつながった。
	目標値の達成状況	マイレージ参加者は、6,633人(成人1,700人、子ども4,933人)で目標値に近づいた。ハイリスク者への保健指導実施率は目標達成できていない。
	次年度への対応	「うらら健康マイレージクラブ制度」は内容を充実し、参加者増を図る。特定健診の受診率向上に努める。ハイリスクの方への保健指導も引き続き実施する。がん検診は受診メニューの多様化や受診勧奨・再勧奨などにより受診率向上を図る。

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
4	3	3	10

\* 5段階評価での評価(5:最高評価、3:標準、1:最低評価)

副市長の指示

上半期

健康マイレージ制度を核とした取り組みにより、市民の皆様の主体的な健康管理の意識付けを推進すること。

下半期

健康マイレージ制度については、更なる加入者の増加につながる取組みを検討すること。ハイリスク者への保健指導を徹底すること。

リープロごとに1枚

## 市民福祉部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民福祉部長 篠原 久子

〔リープロの名称〕 自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト

〔目標値〕 ①審議会・委員会等における女性委員の比率 40%、 ②語学ボランティア登録者数 25人

(概要) 個々人の考え方の違いや生活習慣、文化を認め合い、自分らしく生きることのできる共生社会の実現に取り組む事業です。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	女性人材リストの広報・募集を行うとともに女性委員の比率(34.5%)を公表した。また、各審議会等の担当部署に女性人材の情報提供をした。 ホームページでやさしい日本語による外国人住民向けの生活情報を提供した。 友好交流都市ドイツ国ツァイツ市から子ども交流訪問団をホームステイにより受け入れ交流を深めた。
	自己評価	平成25年度末の女性委員の比率は24年度末とほぼ同じだった。今後とも女性人材の情報提供など目標達成にむけた取り組みが必要である。
	下半期への対応	男女共同参加フォーラム及び女性のための政策参画セミナーを開催する。 多文化共生を推進するため、外国人向けの生活情報提供に努めるとともに、地域での交流を促す。
下半期	取組実績	10月に子どもとのかかわり方セミナー、11月にデートDVセミナー、12月に男性のための料理入門、1月に男女共同参画フォーラムを開催し128人の参加だった。 2月に国際交流を支援する団体等と協力して「こくさいカフェ」を開催し、外国人を含め約120名の参加があった。
	自己評価	いくつかのセミナーや男女共同参画フォーラム等を開催したが、参加者が少ない。「こくさいカフェ」は初めての試みだったが、参加した外国人、日本人の双方から交流ができ良かったと好評だった。
	目標値の達成状況	審議会等の女性委員の比率40%は達成できていない。
	次年度への対応	男女共同参画に関する魅力のある講座、フォーラム等の実施及び広報・啓発に努める。国際交流活動団体等と連携して、市民と外国人住民の相互理解を深めるための情報提供や催しを実施する。鳥栖・ツァイツ子ども交流事業として、ツァイツ市へ学生を派遣する。

### 自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
2	3	3	8

\* 5段階評価での評価(5:最高評価、3:標準、1:最低評価)

### 副市長の指示

#### 上半期

- 女性参画率の向上を図り、また女性人材リストの活用を積極的に行うこと。

#### 下半期

- 各種セミナー、フォーラム等の参加者増に向けて魅力ある取り組みを検討すること。
- 審議会等における女性参画率の増加に向けて、関係各課へ働きかけを行うこと。